

特別展 世界の織機と織物 織つて！みて！織りのカラクリ大発見 関連

ワークショップとミニレクチャーセンター



織
り
つ
て
な
ん
だ
ろ
う
?

世界各地で調査・研究をしている研究者や専門家と一緒に、

「織り」という手仕事の世界と、

人びとの暮らしへ関心を深めてみませんか？

みんぱくでは、特別展会期中に、

織り技術や、糸つくりを体験するワークショップ、

織機の仕組みや、織物をつくりだしている人びとの文化や生活を紹介する

ミニレクチャーを開催します。

特別展 世界の織機と織物

織つて！みて！織りのカラクリ大発見 関連

ワークショッピングとミニレクチャーセンター

ひろいのぶこ

1951年神戸で生まれる。現在、京都市立芸術大学美術学部教授。1971年の沖縄、74年のインド・ネパール訪問以降、アジア・ヨーロッパ・中南米などを訪ね、染織の原点にふれる旅を続けている。1999年に『織物の原風景—樹皮と草皮の布と機—』(共著、紫紅社)を刊行。作品制作は、1977年京都のギャラリー16で初個展。その後、京都、東京、オランダでの個展や、国内外のグループ展で作品の発表を続けている。2011年はドイツとオーストラリアで、2012年にはリトアニアでテキスタイル展に出品した。

藤井健三 ふじい けんぞう

1946年京都市で生まれる。1970年に京都市立芸術大学染織科を卒業。京都市染織試験場に勤務し、2004年に退職。染織工芸における技術史および文様、色彩を研究するが、特に京都に特化した古代染織と西陣織、友禅染などの染織技法技術について専門とする。また、祭礼用染織品の調査研究を行い、現在はその復元新調の製作を指導する。著作に、『時代裂織組織一覧』、『近代の染織』、『近代図案集(17冊)』など。

柳悦州 やなぎ よしくに

1952年東京で生まれる。1975年玉川大学工学部機械工学科卒業。柳悦孝織物工房に入所し織物制作と研究に従事。現在、沖縄県立芸術大学付属研究所長。紡織物を中心に織物制作をおこなうとともに、織物技術論、織物技術史を研究。1991年よりラオスの織物文化調査を継続。報告書に「シルクロード織機研究」(2002年)、「続シルクロード織機研究」(2006年)『シルクロード研究センター紀要』、論文に「沖縄の天秤腰機と紋織の復元」(2005年)・「ラオスの平整経式腰機」(2006年)『沖縄県立芸術大学附属研究所紀要』など。

行松啓子 ゆきまつ けいこ

島根県安来市・出雲織り工房へ弟子入り後、京都工芸織維大学大学院にてカイコの人工飼育の研究と同時に、石川県白山市・白山工房にて座織り及び牛首袖製作技術を修得。2004年よりタイ国に滞在し、日本とタイの絹かすり織物の比較にてPh.D.修得。2009年帰国後、群馬県中之条町にて、手織り糸を用いた絹織物の製作発表すると共に、タイ東北部の伝統絹手織物を中心に調査を継続。群馬県立日本絹の里にて織物専任講師。

吉本忍 よしもと しのぶ

1948年広島市で生まれる。1973年京都市芸術大学美術専攻科修了。現在、国立民族学博物館教授。専門は民族工芸論・民族技術論。1970年以来、インドネシアをはじめとして世界各地で機織り技術や染織工芸の調査・研究に従事。著書に『インドネシア染織大系』(1977年、1978年、紫紅社)、『ジャワ更紗』(1996年、平凡社)、論文に『手織機の構造・機能論的分析と分類』(1990年、『国立民族学博物館研究報告』)など。

プロフィール

井関和代 いせき かずよ

大阪府で生まれる。現在、大阪芸術大学芸術学部教授。染織作品の制作活動とともに、アジア・中近東・アフリカ等世界各地で染織の調査・研究に従事。著書に『アフリカの布ーサハラ以南の織機・その技術的考察』(2000年、河出書房新社)、論文に「ザイル・クバ族のラフィア染織」『アフリカ民族技術の伝統と変容』(1990年、『国立民族学博物館 研究報告別冊』)など多数。1992年より大阪・梅田丸大において個展。(1996年まで毎年、2004年まで隔年)、2004年、2006年、東京銀座・和光アートサロンにて個展。

上羽陽子 うえは ようこ

1974年名古屋市で生まれる。大阪芸術大学工芸学科染織コースを卒業。大阪芸術大学大学院芸術文化研究科博士課程修了。芸術文化学博士。現在、国立民族学博物館文化資源研究センター助教。裂織による作品を制作するとともに、インド西部において牧畜民ラバーリーの染織技術や儀礼についての調査に従事。著書に『インド・ラバーリー社会の染織と儀礼—ラクダとともに生きる人々』(2006年、昭和堂)。

内海涼子 うつみ りょうこ

1954年神戸市で生まれる。大阪大学文学部美学科卒業。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。インドネシアやベトナムを中心とした東南アジアの民族造形と衣文化を研究。現在、大阪成蹊大学芸術学部環境デザイン学科テキスタイル・ファッショングラインコース教授。論文に「ベトナム北部ラオカイ省サバ県のザオ民族の衣文」(2008年、2009年)、『大阪成蹊大学芸術学部学紀要』vol.4.5)、「ベトナム北部のモン民族の大麻織物」(2009年、『ビオストーリー』Vol.12)など。

金谷美和 かねたに みわ

1969年奈良市で生まれる。京都大学文学部美学美術史学科を卒業。京都大学人間・環境学研究科博士課程修了。文化人類学専攻。人間・環境学博士。現在、京都大学地球環境学堂三才学林の研究員、国立民族学博物館外来研究員。インドの染色職能集団の研究に従事。著書に『布がつくる社会関係—インド絞り染め布とムスリム職人の民族誌』(2007年、思文閣出版)。

日下部啓子 くさかべ けいこ

2000年インドネシア・スラウェシ島ママサでカード織りに出会い、以来現地でトラジャ人ママサ人のカード織りの調査研究、また合わせてループ操作組紐の調査研究を行う。その後スウェーデン、オランダでヨーロッパのカード織りを学ぶ。カード織りを故ビーター・コリンウッド、組紐を木下雅子、ノエミ・シュパイサー各氏に師事。『染織α』にカード織りに関する著述多数。2006年福岡市美術館にてコレクション展開催、『スラウェシ島の染織』出版。

鳥丸知子 とりまる ともこ

1969年福岡市で生まれる。東華大学大学院(中国・上海)紡織工程学科博士課程修了。工学博士。現在、福岡職業訓練協会講師、九州栄養福祉大学非常勤講師。アジアを中心に民間に現存する染織技術の現地調査を行うとともに、国内外において織物製作の指導に従事。著書に『布に踊る人の手—中国貴州苗族染織探訪18年』(2004年、西日本新聞社)、『One Needle, One Thread』(2008年、Hawaii Univ.)。

ワークショップA 事前申し込み制 参加無料

応募締切日 8月31日(金) 定員各15名

9月16日(sun)

アシャンティ機で、
西アフリカの細幅木綿を
織る

講師：井関和代

時間：13:00～16:00

場所：特別展示館

対象：小学3年生以上

(それ未満は保護者同伴で参加可)



ガーナ共和国のアシャンティの織機で、織作業を体験します。西アフリカの一般的な「細幅木綿布」について紹介します。

9月22日(sat・祝)

沖縄のよしず作りの方法
でコースターを
織ってみよう

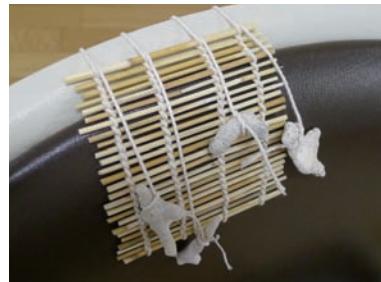
講師：柳悦州

時間：13:30～16:30

場所：特別展示館

対象：小学3年生以上

(それ未満は保護者同伴で参加可)



スダレも織物です。スダレを織る方法を使って、小さなコースターフクリに挑戦してみましょう。簡単な方法で織物には張力が必要であることを学びます。

9月30日(sun)

絹糸ってどんな糸？

講師：行松啓子

時間：10:30～13:30～(1日2回)

場所：第3セミナー室(本館2F)

対象：小学4年生以上



カイコが作る繭から作られる絹糸について知ると同時に、絹糸作りに挑戦します。真綿作りや座織り機を使った糸作りを体験しながら、カイコが吐き出す糸を通して、生き物と人の共生、モノ作りの在り方について考えます。

ワークショップB 事前申し込み制 参加無料

応募締切日 9月21日(金) 定員各15名

10月6日(sat)

麻と木綿などで、
自分の糸をつくりましょう！

講師：ひろいのぶこ

時間：10:30～16:30

場所：第3セミナー室(本館2F)

対象：小学4年生以上

(それ未満は保護者同伴で参加可)



綿花から自作の紡錘で糸紡ぎをし、麻の纖維を糸紡みをして、自分だけの糸作りを試みます。できた糸を燃りあわせ、厚紙を用いて、コースターを織ります。

10月13日(sat)

中国・貴州省、
苗民族の紐織りに挑戦！

講師：鳥丸知子

時間：10:30～16:30

場所：第7セミナー室(本館2F)

対象：高校生以上



中国・貴州省の苗民族は、民族衣装に様々な紐を使っています。苗語には文字が無く、文様で民族の伝説や道徳、教育、哲学などを次世代に繋いできました。紋織技術を学びながら、人と織物の関係や文様の役割について考えます。

10月21日(sun)

羊毛文化の糸紡ぎ

講師：井関和代

時間：13:00～16:00

場所：特別展示館

対象：小学3年生以上

(それ未満は保護者同伴で参加可)



イランやペルーなどの羊毛の糸紡ぎを紹介します。糸紡ぎを体験しながら、その原理を学ぶとともに、世界の羊毛文化について考えてみましょう。

10月 28日(sun)

インド、ラバーリーの
からだ機に挑戦！

講師：上羽陽子

時間：10:30～16:30

場所：特別展示館

対象：小学3年生以上

(それ未満は保護者同伴で参加可)



インド西部、カッচ県の牧畜民ラバーリーの製作技術にならって、太紐と身体だけを使用する細帯つくりに挑戦します。細帯を彼らは、飼育する母ラクダに、乳当て袋を留めるために使用します。彼らの乾燥地帯での生活やものづくりの知恵について一緒に考えてみましょう。

11月 11日(sun)

ふたりで織りましょう！
指をつかった機織り

講師：ひろいのぶこ

時間：10:30～、13:30 (1日2回)

場所：特別展示館

対象：小学4年生以上

(それ未満は保護者同伴で参加可)



ふたり一組になって、道具をいっさい使わずに細幅の紐を織ります。ひとりは指に糸の輪をかけて、もうひとりはヨコ糸を入れて打ち込みます。厚みがあつて丈夫な紐なので、ウズベキスタンではバッグの持ち手や、物を束ねる時に使われます。糸の色や素材を変えることで、オリジナルのベルトを作つてみましょう。

11月 25日(sun)

カード織りの世界
-‘もじれ’から生まれる文様とテクスチャー-

講師：日下部啓子

時間：10:30～16:30

場所：第5セミナー室(本館2F)

対象：中学生以上



ユーラシア大陸の各地に広がるカードを使ったタテもじ織は、古代から行われてきた織織りです。その柔軟な機の形態からカード織りは、民族によつて多様な工夫と発展がみられます。このワークショップでは、カード織りの仕組みを体験とデモンストレーションで学んだのち、午後はチューブ状の紐を織ります。

ミニレクチャー 当日受付 要観覧料 時間 13:00～14:00 場所：特別展示館

10月

特別展を見学しながら、
展示資料を中心に織りの研究者や
専門家がお話しします。

23日(sun)

日本とラオスの腰機を中心に
講師：柳悦州

24日(mon)

ワラや紐を糸素材とした
織物と織機
講師：吉本忍

29日(sat)

繊維素材としての絹
-自給自足的な養蚕・糸作り・製織
講師：行松啓子

6日(sat)

東南アジアの腰機の仕組み
講師：内海涼子

7日(sun)

インド、牧畜民のからだ機について
-ラバーリーを事例に
講師：上羽陽子

8日(mon・祝)

タテ糸の張力と織機の分類
講師：吉本忍

13日(sat)

織物の素材
講師：金谷美和

14日(sun)

中国の六角形のカード織り
講師：鳥丸知子

27日(sat)

アジアの麻織物
-素材の特性と、織物工程の関係を読み解く-
講師：ひろいのぶこ

11月

4日(sun)

絹糸と織物の関係について
講師：藤井健三

10日(sat)

『天工開物型』腰機について
講師：内海涼子

15日(thu)

異形の織物と織機
講師：吉本忍

23日(fri・祝)

平織から紋織について
講師：藤井健三

24日(sat)

カード織りの世界
-インドネシア・トラジャ人、ママサ人を中心に
講師：日下部啓子

27日(tue)

織りのカラクリ大発見
講師：吉本忍

応募方法

ワークショップへ参加ご希望の方は以下の①～⑤の内容を明記の上、Eメールまたは、往復ハガキにてご応募ください。

①参加者氏名 ②年齢 ③住所（郵便番号） ④電話番号 ⑤参加ご希望ワークショップ名

【以下の注意事項を必ずご確認ください。】

※応募は往復ハガキ1枚につき2名様まで、Eメール1通につき2名様までとさせていただきます。

※応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

※ご応募いただいた方には、当館よりお申し込み結果を締切日から2～3日後にお知らせいたします。

※1度の申し込み（1枚のハガキまたは、1通のEメール）で、1つのワークショップのみの応募とさせていただきます。

※往復ハガキでお申し込みの場合は、返信ハガキの表に代表者の住所・氏名をご記入ください。

※参加お申し込みいただいた方の個人情報は、本館事業に関する目的以外では使用いたしません。

応募締切日

参加ご希望のワークショップ実施日と各締切日をご確認の上、応募方法に沿ってご応募ください。

ワークショップ実施日		応募締切日（必着）
A	9月16日(日)、9月22日(土)、★9月30日(日)	8月31日(金)
B	10月6日(土)、10月13日(土)、10月21日(日)	9月21日(金)
C	10月28日(日)、★11月11日(日)、11月25日(日)	10月15日(月)

★9月30日(日)と11月11日(日)は午前／午後のご希望を明記ください。

応募先

往復ハガキ

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園 10-1

国立民族学博物館

情報企画課「秋季特別展ワークショップ」係

Eメール

workshop@idc.minpaku.ac.jp

お問い合わせ

受付時間 平日（月～金）9:00～17:00

情報企画課 「秋季特別展ワークショップ」係

TEL:06-6878-8532

国立民族学博物館

交通のご案内 国立民族学博物館（みんぱく）は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

●大阪モノレール…「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車徒歩約15分

●阪急茨木市駅…JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車
徒歩約15分（茨木方面から、自然文化園・日本庭園中央経由のバスが
1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）

●タクシー…万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

●自家用車…万博記念公園「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分

*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。

みんぱく
携帯サイト



ワークショップ
メーリング
リスト



* 内容文は空白で(空メール)メールを
お送りいただくと今後のワークショップ
の情報をメールでご案内します。
e-mail:workshopentry@idc.minpaku.ac.jp

